

## インターンシップについて

高橋 憲雄 (広報委員長)  
岡田 進 (事務長補佐)

平成11年度からインターンシップ制度が全国規模で発足しました。インターンシップは、大学等の教育の一環であり、就職活動のためのものではありません。  
インターンシップ推進の背景、今年度の実施状況などについて概略を説明します。

### 1. インターンシップ推進の背景等

国際化、情報化の進展、産業構造の変化など日本の社会経済の変化に伴って、能力主義の徹底など雇用慣行をとりまく環境が急速に変わりつつあるとともに、求められる人材も大きく変わってきています。

政府においては、インターンシップが、高等教育における創造的人材育成に大きな意義があるとして、インターンシップを総合的に推進しています。

それではインターンシップとは何か? 一般的には学生が企業等において、実習・研修的な就業体験をする制度です。インターンシップが活発に行われているアメリカでは、現在までに90年以上の長い経験を重ねた制度となっていて、大学等のイニシアチブの有無、実施期間及び実施形態によって様々な方法が確立されています。

一方、我が国においては、インターンシップについて、社会的に共通した認識、定義が確立しているわけではありませんが、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として幅広くとらえることとしています。

なお、中国地域におけるインターンシップは、中国5県の4年生大学、国立工業・商船高等専門学校に在籍する学生と中国地域の企業等(企業、政府機関、地方公共団体、公益法人等)が通商産業省(中国通商産業局)の呼びかけて「中国インターンシップ推進協議会」を設置し、インターンシップの企画・実施等に当たっています。

### 2. 総合科学部におけるインターンシップ

総合科学部では、第3セメスター(過年度生も可)に特別科目としてインターンシップ2単位を設けています。ただし、卒業単位には含めないことにしています。

平成11年度のインターンシップ1次応募者は7名(全学では56名)で、最終的にインターンシップを体験したのは6名(全学38名)です。これらの学生諸君は受入企業等で今までの大学授業にはない貴重な体験を得て、インターンシップに高い評価を与えています。

平成11年度中国地域インターンシップ参加者(敬称略)

氏名	コース	受入企業等	受入期間	備考
奥田 晃子	社会科学	(財)通商産業調査会 中国支局	11年9月6日 ～9月17日	実習時間10:00-16:00 刊行物の販売等
金谷 繁明	生体行動	(財)尾道海技学院	11年8月4日 ～8月11日	1日6時間の就業。学院の寮に宿泊。 マリンスポーツ、小型船舶整備アシスト、事務作業等。
壁谷 彩代	自然環境	国立三瓶青年の家	11年9月14日 ～9月27日	実習時間8:30-17:00 利用団体の対応と指導
竹田 慶	自然環境	通商産業省中国通商 産業局	11年8月23日 ～9月3日	実習時間8:30-17:00 環境資源部エネルギー対策課
田中寿美子	社会科学	日本貿易振興会 山口貿易情報 センター	11年8月16日 ～8月27日	実習時間9:00-17:00国際経済交流 (貿易・投資等)の振興事業
森國 智恵	自然環境	(株)アサヒテクノ リサーチ	11年9月16日 ～9月29日	実習時間8:30-17:30 環境分析、化学分析業務

### 3. 就業体験報告書

インターンシップに参加した学生諸君からは単位認定のために「就業体験報告書」を提出してもらいました。報告書の質問事項は、1.就業体験を通じて感じたこと、気づいたこと(仕事、職場、社会人と学生の差など)、2.自分の課題として見出したこと(これから勉強したいこと、人間形成に向けての意識の変化など)、の2項目です。以下、学生諸君の報告をごく大まかに纏めてみます。

まず仕事、職場について。営業に携わった学生は、「営業活動はマニュアル通りにやればよいのではなく、何よりも大切なのは人と人の繋がりだ」という感想を述べています。「大学を卒業して就職すれば、基盤となる人間関係が何もない状態からネットワークを広げていかなければならない」、「人と人との繋がりは、それが出来上がるまでには長い時間を要す。職場の人や相手先の人への礼儀を忘れず、かつ積極的に交流をはかることが大切だ」と結んでいます。

ある学生は、職場の印象として「事務の仕事の多さ」を挙げています。「表面に見える仕事の下には事務があること。どんな職種であろうと、事務的な仕事がかんらずあること。地味で目立たない仕事だが、なくてはならない仕事であること」。全くその通りですね。大学も同じです。

ある学生は、仕事上の規則の多さに驚いたと述べています。「社会人は規則の中で働いている」と。規律や規則は個人的には好きではありませんが、それがないと組織が立ち行かないこともありますね。

次に学生と社会人の差について。ある学生は「時間を守るか守らないか」に大きな違いを感じ取っています。「社会人には遅刻はまずありえない。仕事開始30分前には来て、仕事の準備をしている。それに比べ、大学生は1時間目の授業に間に合う人の方が珍しくらい。大学生は甘いなどつくづく感じた」。教員も社会人ですが、この感想に少し恥ずかしくなりました。

別の学生は、「表面上では社会人も学生も変わらないが、仕事に対する態度と真剣さが違うということがわかった」と述べています。「大学と社会は別世界などと構えてかかる必要はないけれども」、社会人は能力がなければ生活が苦しくなる、その「生活への密接な繋がりが社会人をまじめにさせる」のではないかと。

またある学生は社会人の「組織」重視に批判的な考えを率直に述べています。「コミュニケーションのとれない相手でも、特に目上の人に対しては、身を低くしてコミュニケーションをはからねばならない。そこが社会人の嫌なところで、学生なら許される事だなど感じた」。たしかに、社会人には「世渡り」「処世」の術が必要で、それによって大切なものをなくしているのかもしれない。

次に自分の課題として見出したことについて。

ある学生は、パソコンに習熟すること、実用英語を身につけること、敬語を正しく覚えることを課題として挙げていますが、それよりも大きな課題として、「大学生でいられる間にいろいろなものに興味をもち、これと思ったものを掘り下げていくこと」を挙げています。

ある学生は人と人との信頼関係を築き上げてゆくことができるようになることを課題として挙げています。そして「自分の仕事にどのような責任があり、どのようなことをすればより良い仕事をできるかわかるような人間になりたい」と感想を述べています。

ある学生は、「グローバル化の波に飲まれまいように、自分を常に探求し、地域主義にも目を向けていきたい」と述べています。「インターンシップで地域から世界が見えるのだと実感した」というように。確かに、グローバル化といっても、しっかりとした立脚点があれば対応できませぬ。

またある学生は、従事した業務と自分が就きたい職業の違いを感じ、「この体験で自分の就きたい職業に従事するためには大学でどのような勉強をしたらよいのかの指標を見出すことができた」と述べています。

最後に、「インターンシップといっても教えてもらうばかりで仕事の面で貢献していない」という複数の学生の感想がありましたが、そうした感想に対して就業先の職員が学生にこう言ったといいいます。「確かにそういう面もあるけれど、意識の高い学生が得られることは長い目でみれば社会にとって有益なことだ」、「インターンシップでは働くということよりもむしろ色々な道があるということを学んでもらいたい。学生は多くの可能性をもつだから」。その通りであろうし、また教員・事務官にとっても非常に有り難い言葉だと思えます。

短い就業体験だけれども、学生諸君は皆、何がしか得るところがあり、学生生活を有意義に過ごすための手掛かりを得たようです。

学生諸君にはインターンシップに是非興味を持っていただき、さらに積極的な参加を期待しています。平成12年度に参加を希望する方、又は詳しく知りたい方は総合科学部教務係へ相談して下さい。

# 外国人教員の任期制について

——1982年に外国人教員任用法という法律が制定された。この法律は国公立大学において当時語学を教えることのみ立場であった外国人教師が、外国人教員（専任教員）として仕事ができるという画期的な法律であった。この法律のおかげで日本人教官と外国人教員の立場は法律上対等になるはずであった。しかし現実はこの法律の制定により潜在していた外国人差別が表面化してしまったのである。以下にその法律の抜粋を紹介する。

## 外国人教員任用法（1982年制定・抜粋）

1. 国公立大学においては、外国人を教授・助教授または講師に任用することができる。



2. 外国人であることを理由として、教授会その他大学の運営に参与する合議制の構成員となり、その議決に加わることを妨げられることはない。

3. 1の規程によって任用される教員の任期に関しては、大学管理機関の定めるところによる。

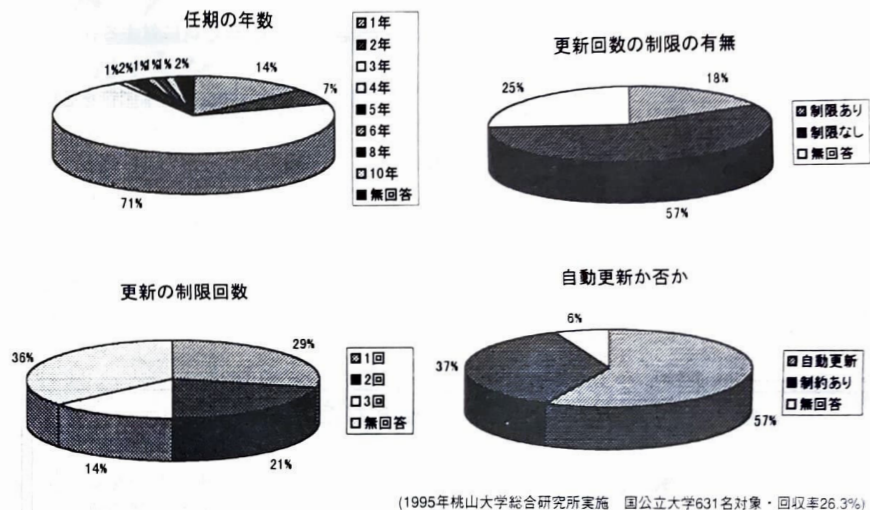
この法律の「大学管理機関の定めるところにより」というフレーズに注目してもらいたい。これは外国人教員採用時に任期付きの採用をするか否かは大学の判断によることである。これにより外国人教員の大半は2年や3年間の任期付きの採用となったのである。すなわち任期が切れた場合に契約を更新されなかった外国人教員は職を失うということである。たった2、3年後の職業の保証のないものが日本人教官と同等と言えるのだろうか。

この特集ではこのような外国人教員に対する任期制の実態を調べた。この特集は2つのパートを軸にしている。第1パートではこの法律の矛盾点および任期制の実態とその差別的処遇を挙げる。そして第2パートは広大総科における任期制に対する外国人教員の声をもとに作成されたものである。

## 第1パート：任期の実態と任用法の矛盾点

以下図1は任期制の実態について1995年に桃山大学が調査した結果である。

これによると、任期の年数は3年、更新回数の制限はなし、という回答が多い事がわかる。任期について3年が一番多いのは次項に述べる京都大学の例に倣ったものであろう。とはいえ任期が1年という回答は14%もある。更新回数の制限はないものが多く、自動更新のものも多いのだが、それにも関わらず終身雇用にせず、その上任期年数が短いのは大学側に外国人教員に対する何かわだかまりみたいなのがあるからであろうか。



それでは、なぜ外国人教員の多くに任期制が付与されるのか。以下はそのことについて他の差別的問題も絡めて、任用法の問題点を三つの視点から深く考えてみることにする。

### 1. 任期制導入までの流れと日本人教官の任期について

任期制の導入についてはちょっとした話がある。それはこの法律は議員立法として成立したのだが、その際に「日本人教官に対する任期制付与の突破口としてまず外国人に任期制を付与すべき。」という意見が出されたことである。結果、任期については大学管理機関の定めるところによるという曖昧な表現をとることで合意に達した。

しかしその後しばらく、日本人教官の任期に関する話はされなかった。15年以上たった今になってようやく話が出てきたのだが（これは大学の独立行政法人化の話と関連する）このことが皮肉にも現在の外国人教員の任期に関する問題を宙づりにさせる結果となってしまった。

## 2. 文部省省令と各大学の対応

任用法の制定により、外国人教員の任期について文部省から省令が出された。この省令によれば、「任期は大学側の議に基づいて定めるものとする」という一節がある。これに伴い任期に関しては“定めるもの”という考え方が広がり、初めて外国人教員の任用を行った京都大学でも、「任期は三年とし、更新は妨げられるものではない」という規程を作ってしまった。この対応がこの後の他の国立大学の外国人教員への対応に影響を与え、国立大全体で8割近い（1998年の統計では77.4%）外国人教員に対して、任期付きの採用を行うことになったのである。それに対してこのことは大学側の方針で任期を決められるということなので、東京大学や九州大学など、任期を定めないという規程を作っている大学もある。

## 3. 大学教員の地位と国籍条項

国立大学の教員の法的な身分は、国家公務員である。これに伴い、公務員に対する行政解釈ということで次のような法理が働いてくる。

「公権力の行使又は国家意思の形成への参画に携わる公務員となるためには、日本国籍を必要とする。」（昭和28年6月29日 事務総長）

この行政解釈は国籍条項と呼ばれているものである。実際この条項は「当然の法理」として認識され、法律化されているわけでもない（外務公務員は別）。この法理が国立大学の教員に当てはまるか否かということを決着づけるための任用法でもあったのだが結局そのことについても曖昧なままとなったのである。なぜなら、外国人教員は、国立大学の意志決定機関であり人事、運営という面において国家意思の形成に携わっている教授会に参加できるが、それと同じ権限を持つ学長、学部長等にはなれないという、わけのわからない特例的な身分になってしまったためである。

### 任用法によってもたらされた“余波”

任期制によって外国人教員は自らの職業の不安定さを感じている。しかし不安定さを感じるのは何も仕事だけに限ったことではない。彼らは日常生活においても任期制の弊害ともいえる“余波”に苦しんでいるのだ。以下にその一例を挙げる。

#### 1、年金の問題

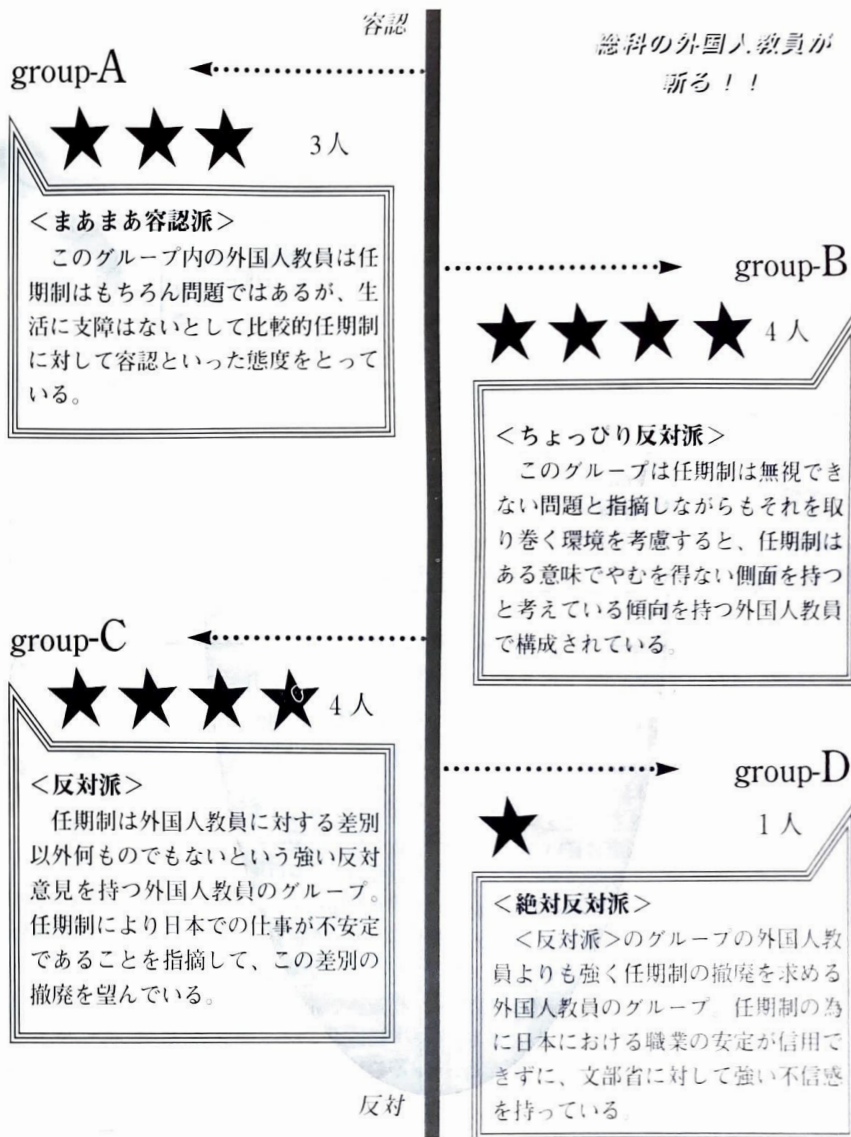
外国人教員達は法的には国家公務員であるからもちろん年金を払わなくてはならない。しかし彼らが解雇されたり、定年前に自国に帰ってしまう（帰らされてしまう）場合はどうするのであろうか。今まで払った年金は全額ではないが無駄になる。外国ではその問題に対処している国もあるというが、日本ではまだされていない。

#### 2、ローンの問題

外国人教員達は銀行などからお金を借りることが非常に困難である。なぜなら彼らは大学と短期間の契約しか結べないから、契約満了後に日本にいる保証がないからである。確かにわずか数年後に日本にいる保証のないものに金を貸すのをためらうのも無理もない。住宅ローンなどが組めないために日本での生活に安心ができないという外国人教員が多数いるのも事実である。

## 第2パート：広大総科の視点

前のパートで任期制の日本全国における実態がある程度理解できたと思う。このパートでは総合科学部に勤務する外国人教員12人に対するアンケートの結果をもとに、広島大学総合科学部において任期制がどのように考えられているか特集した。



### Voice from group-A <まあまあ容認派>

- ・論文を発表したり、本を出版したり、良い授業を行ったりして真面目に働けば不快な思いを味わうことはないで別に嫌いではない。
- ・結婚していたり、その土地が気に入っていて離れたくない場合は別だけど自分の場合は（任期制によって）いろいろな大学に行けるから嬉しい。
- ・その国のシステムに馴染もうとすることも大切だ。



### Voice from group-B <ちょっぴり反対派>

- ・日本での仕事において何か知らず不安の気持ちがある。
- ・日本の任期制は外国人と日本人を区別する制度に過ぎない。
- ・外国人をコントロールしたいが為に任期制を設けたのだと思う。
- ・研究する上で期限というのは大きな制約となっている。



### Voice from group-C <反対派>

- ・外国人教員が日本人教官と同じように専任教員として雇われる場合は仕事の内容は日本人教官と全く同じなので、任期制が採用されるのはおかしい。
- ・同じ義務を果たしながら、権利も保障も享受できないという構図のものである。
- ・人種差別であると思う。
- ・日本人教官と同じ立場で雇われている外国人教員に対して任期制を廃止すべきだ。



### Voice from group-D <絶対反対派>

- ・任期制は人種差別主義に過ぎない。日本人はアメリカで働く日本人労働者を制限するGentleman's Agreementに不満を持っている。それにも関わらずなぜそれと同じことをするのか？



### 総科の対応についての意見

- ・任期制以外に問題はないと思う。
- ・大変良いと思う。
- ・特に悪いとは思わない。
- ・前の私大は更新してくれなかったもので、それに比べると総科の対応は良い。
- ・日本社会と同じように広大総科も基本的には外国人を平等に扱わない。国際化の時代にも関わらず基本的な姿勢はかわってない。
- ・更新の際に外国人教員はその期間までの自分の業績を見せなくてはいけない。日本人教官にはそれがなかったのでこれは差別だと思う。

### Other Voice

- ・任期制が差別的に設けられているのは、歴史的に外国人に対する疑いがあるからだと思う。
- ・外国人と日本人は法的、社会的に義務、権利等が基本的に異なっているから任期制が採用されていると思う。
- ・任期制は大学の機能を国民国家単位でわけて考える思考からきたものだと思う。従ってグローバル化が加速する現在では時代錯誤である。
- ・経済的に考えると、若い外国人教員の方が給料が安く済むから、短期契約をしているという面があると思う。

## ゴールズベリ先生インタビュー ～総合科学部最古参外国人数員の声～

飛翔（以下FH）：1982年の法律制定以来、外国人に対する待遇はどのようにかわりましたか。

ゴールズベリ（以下G）：私が最初広大に外国人教師としてきた時、奇妙なことを大学から要求されました。私の担当する英会話の授業ではいっさい私は日本語を使うなどということです。私が日本語を勉強することは全く期待されませんでした。しかし1982年に外国人の任用に関する法律が制定されて私も1987年に助教授に採用されました。そのとたん大学は私に日本語で諸実務をすることを要求したのですが、それにも関わらず日本人と同じように扱われませんでした。

H：任期の満了に伴い契約の更新をされなかった先生もいたのですか？

G：広大総科のD先生は更新されませんでした。これは学生数の減少に伴う教官の少数化のおおりに受けているものと思います。誰かが退職されないとポストがあかないから採用されないのです。

H：短い任期の雇用を望む先生もいるのですか？

G：います、退職して他の大学に行くためや自分の国に帰るためです。私の友達でも契約の満了に伴いS大学にいった人もいます。

H：それでは一概には任期制には反対しているとはいえないのですか？

G：一般的に外国人数員の方々は任期制に反対だと思いますよ。でも任期制があれば外国人数員の方々が他の大学へなど自由に異動できるようになるので、学問の活性化という点では良いのかもしれませんが。現在日本では日本人教官に対しても任期制を導入しようかと考えています。アメリカやイギリスには実際に自国人と外国人の教員両方に任期制があります。任期のうちに学位や論文等の具体的な結果を出さないと契約を更新してもらえません。これは外国人だからということとは関係ありません。学問的な結果を出したのであれば任期はなくなり終身雇用となるわけです。つまり学問的な理由で任期制があるのです。例えば研究内容など日本人と外国人が同じ立場であれば任期制があっても良いと思います。それに対して、日本の場合は国籍によって任期制を採用している。

H：それではなぜ日本の国公立大学では外国人数員に対して任期制を採用しているのでしょうか？



P・A・ゴールズベリ（教授）

学生時代にフランスに留学、イギリスとアメリカの大学を経て1980年に外国人教師として広島大学総合科学部に赴任。1987年に助教授、1994年に教授に就任。専門は古代ギリシア哲学と現代西洋哲学。

### 広島大学における任期制制定の流れ

1982年に法律が制定され、1985年に広島大学に外国人数員の任期に関する規程ができる。ここで第二条で「外国人数員の任期は三年とし、再任を妨げない。」という規程がありそれと申し合わせ次第項があって第三条の中で「前条の規程に関わらず、特別の事情があるときは、協議会の議に基づき、学長が個々に任期を定める。」としている。

学長が個々に任期を定めるとしたところ国立大学のいくつかは任期を採用しない方針をとった。広島大学もこれに倣い任期を定年まで（つまり日本人教官と同じ終身雇用）にしようと考えた。

# マイノリティ開話三題

外国語コース助教授 盧 濤

G: 江戸時代の鎖国のために国際交流が不足していたということがまず考えられます。また教育に対する考え方の違いがあると思います。私は大学において自分の興味ある分野を学びたいから進学したわけです。しかし日本では大学への進学は就職の一手段として、社会人を養成するためと考えられている節があります。そのために政府は日本人以外に日本人の教育はできないと考えています。

H: 大学における外国人教員の理想はどのような存在だと考えていますか？

G: ロンドンのある大学の日本人教授は経済学において有名です。このようにイギリスでは国籍などにはこだわらず能力があれば教授にだってなれます。私は最初は言語教育のみの教師として広大に赴任しました。もちろん言語教育ではネイティブではない人では発音とかにおいても務まらないところもあります。しかし日本でも言語教育や国籍などにこだわらず外国人教員を一人の教員としてとらえることが必要なのではないでしょうか。

しかしその時に同時に日本人教官にも任期制を設けようという議論が起こったため、外国人教員の終身雇用の議題は先送りになり、現在に至る。なお最長任期としては10年くらいが適当であるとして10年と定められた。

以上のような経緯で現在の任期制体制は整ったと言える。しかしその日本人教官の任期制に対する議論が先送りにされて以来、もうすでに15年以上も経過している。そのことに関しては「怠慢といわざるをえない」(江口学部長)と考えられる。

業績評価の必要性  
外国人教員は任期の更新の時に業績評価を受ける必要がある。これは、もちろんその任期の間に業績を挙げなくてはならないことを意味し、日本人教官にはその必要はない。評価をすること自体は大切であるが、これでは差別的だと考えられても致し方ない。

## 結びにかえて・・・

これまでで外国人教員の任期制の実態が理解できたと思う。彼らは自分の研究をするために大学にやってきたのであり、その点において日本人教官と変わりはない。

第1パートで述べたようにこの問題は法律と密接に関係して、非常に複雑な側面を持っている。本文で述べているように、大学の独立行政法人化や日本人教官に対する任期制の導入などと関連して、もはや単純に任期制を廃止すればいいとは言えないのである。任期制の問題は全国規模で取り上げられている問題であるが、地域レベルにおいてみなさんに理解していただきたいと思い、第2パートにおいて広島大学総合科学部における任期制に対する意識を特集した。広島大学の外国人教員の多くは、実際に勤務している広島大学に対する批判は少なく、むしろ批判の対象となっているのは専ら任期制を制定した文部省であると考えられる。本文中「総科の対応についての意見」における批判的な意見の多くは、広大総科で対処できる範囲を越えており文部省の指針に対するものと捉えられる。

もっとも任期を更新するのは「暗黙の了解」という見方が多いのも事実である。(インタビューにおけるD先生に関しては同意の上だったらしい。)第2パートにおいて任期制を「まあまあ容認」している外国人教員が多いのもこのためだと推測できる。また「まあまあ容認派」の意見の中で「郷に入りては郷にしたがえ」とその国の制度に馴染むことが大切だという意見があったが、これは確かに任期制にだけあてはまるのではなく、異文化に接する上で大切な姿勢である。

それでも任期は確実に存在するのでやはり「更新されないのではないか」という不安と向き合っている日々生活している外国人教員が多数存在することもまた事実だ。また「暗黙の了解」といっても、任期があるゆえ長期のローンなどが組めないなどといった実生活上の不便さもある。彼らは日本での仕事に希望を持って祖国からやってきたのである。そのような彼らを失望させるようなことはあってはならない。もし自分が希望を持ってやってきた外国人教員だったらどう考えるか。このような現実を想像力を持って読者には考えてもらいたい。

(吉松・田村)

この世は、どうやらマジョリティとマイノリティの対照的な存在がなければ成り立たないようである。そして、なぜかマイノリティは常に無視されたり軽視されたりして、場合によって不要なものとして扱われてしまう。不思議でならない。

### 変わり者

人間の場合、マジョリティは均質的で目立たず、マイノリティは異質とされがちで安住できない。ある説教が始まっているところ、百人が静かに聞くと互いに居心地が良いが、一人が立ちあがってそれに対し異を唱え、どうなるか。「変わり者だ」、「邪道だ」と罵声を浴び、発言が封殺されるに決まっている。結局、異見を述べる者がマイノリティ的存在として孤立無援の状態に陥ってしまう。

例を一つ。講義が終わる頃、「質問がありますか」と聞いても、シーンと静まり返っているのが大教室の見慣れた光景である。偶に手を挙げる学生がいると、「おい、おい」、「よくやるね」と咬き、からかう場面に出会う。たいてい皆が分からない共通の問題を聞こうとするのだが、それでも、普通ではない「変わり者」と見なされる。躊躇して質問を諦めた人が、放課後個別に尋ねてきて、問題解決に至ることもあるが、あとの大多数はややふやなまま授業を済ませる。

### 田舎

日本では、東京の人が東京以外のところを「田舎」と呼ぶ。盆休みや年末年始に東京を離れることを「田舎へ帰る」という。古の都も例外ではない。中央志向のなか、数が多いはずの「田舎」はどうしてもマイノリティのような扱いを受けている。

しかし、考えてみると、東京こそ「田舎」であって、本来の日本の姿ではない。事実、温泉からの帰り道に目にする「無人販売」の

看板が掲げられている田園や、海辺で出会った釣り人の話から、本当の日本を理解することができるのであろう。また、日本語のルーツを辿ると、東京ではなく、「田舎」の薩摩辺りまで足をはこばなければならない。東京の人間は「田舎者」の集合であり、マイノリティとしての個々の田舎で東京を作り上げている、という事実を、東京の人が忘れていようである。言わば、自分をマジョリティと自認する錯覚を、一部の東京人が持っている。

### 少数言語

二十世紀が終わろうとしている。言葉のことを論案することでメシを食う者に言わせると、英語をマジョリティに、それ以外の言語をマイノリティに仕上げたことは、車よりもコンピュータよりも、この世紀の象徴的な事件と言える。

英語の地位は不動のものである。英語を唯一の好都合の言語手段と認識し、他の数千もの言語を切り捨ててもよいというのが世間一般の考え方らしい。「自由と文明は、英語のみで表現できる」というサッチャー夫人の暴言(「朝日新聞」1999・10・10)がその表れである。

ところが、ロシア語にもフランス語にも堪能なハンガリー人の知人がいる。その彼は、アメリカで古典中国語を、日本で日本語とハングルを習っていた。フランス人や韓国人との、英語によらない会話は、愉快なものに違いない。

中国語学を教わった日本人の恩師に、「先生は、中国語ではなく、英語をされていたら、どうなっていたでしょうか」と尋ねたら、「中国語だと、英語と違って、数百人の研究者にしか知られない」と言われた。その数百人のうちに、この中国人の私も入っていることを思うと、マイノリティでも良いなと考えたりする。

## 水羽信男研究室

地域文化コース 助教授 (A609)



### 専門

僕は広島大学の文学部史学科で、歴史学のトレーニングを積んできました。だから正直言って、“総合科学”を標榜する本学部へ就職したとき、「どうすれば看板に偽りなし」になるのか？と悩みました。でも、と最近では考えてます。歴史学は本来的に諸科学の総合化を目指している。だから、歴史学をベースにそれを深化させることで、総合科学部の教員としての責をたせるのではなからうか、と。

いずれにしても僕たちの仕事は、歴史事象についての“なぜ”という疑問に答えることです。しかしもう一つ歴史学には課題があるように感じています。それは歴史におけるオルタナティブを発見し、その可能性について考えるということ。僕は歴史学を通じて生きる元気を学べたらと思っています。

僕の今最もホットな研究テーマは、

#### 1) 近代中国におけるリベラリズムの受容史

#### 2) 中国近代都市文化史、特にマスメディアが作り出す文化の歴史 の二つです。

1) のリベラリズムの諸価値の実現という問題は、民主化を目指す世紀末の中国にとって、極めて重要な達成目標です。しかし実は現在の日本でも未完の課題ではないでしょうか。僕は近代中国のリベラリズムが抱えた矛盾や可能性を考えることを通じて、日本の今を考える素材が提供できるのではないかと考えています。

2) の都市文化史は、1) の問題を研究するために必須のテーマだと痛感しています。リベラリズムという思想は、現実の都市生活者にとって如何なる意味を持ったのか。また実際の都市文化の在り様は、中国のリベラリズムにどんな影響を与えたのか。そんな問題群を考えなければ、僕の研究は単なる自己満足になりかねないと恐怖しています。というのもマスメディアは思想を伝える重要な手段の一つですが、同時にそれはあらゆる“お堅い”思想をファッションと化し、無力化する力を持っているからです。

#### きっかけ

当初、中学校教員を目指していたが、もう少し勉強しようかなと思って大学院に入り、やっていくうちに知りたいたいことが増え、勉強を続けていくうちに研究が生活の中心になっていきました。何故中国かという、今思えば不遜で、日本の近代を考えたかったのですが、日本を見るだけでは見落としができるので他の国と比較することによって日本の近代の特徴を考えようと思いました。その時に日本を考えるなら関係の深い中国についてやろうと思ったのがきっかけです。また、五味川純平さんの『人間の条件』『戦争と人間』を読んだことにより中国への関心も高まりました。勉強を続けていくうちに中国の個性、特殊性を理解しようと思い、研究を進める上で日本を理解できれば、と考えています。

### 将来の夢

一つでも二つでも社会の上で役立つことを学生に教えられたいいなあ、と思ってます。あと、中国人が気がつかない大切な歴史の発掘、日本人にしか分からない事を中国人に教えられたいいなあと思います。

### 自己PR

「時間があれば人生相談、恋愛相談など、どんな議論もします。」  
「妻は芝居(アマチュア劇団)をやってます。興味があったら見て下さい。」

### 学生への一言

「自ら動き、考え、パワーを先輩後輩、教官にぶつけ、楽しい学生生活にして下さい。」

### 特技

音痴・運動バタ・傲慢・不遜…………… 誇るべきものは何もない水羽です。が、唯一の自信は脚力。皆実高校のテニス部時代、山道のダッシュだけは得意でした。今はJR西条駅=広島大学間を自転車であっという間に疾走しています。目視した先行者は10代の男子学生でも追い抜く。これがモットーですが、結果は…………… (^-)

### 学生時代の思い出

学生時代の思い出は書き尽くせません。自分の愚かさに苛立ち唸った深夜の浴室、先輩が黙って注いでくれたビールのうまさ、目と目で会話が出来ると幻想した彼女の笑顔……………。授業で小出しにしていますので、興味のある方はそちらの方で。

### お薦めの本

- 井上 靖『シャンハイ物語』集英社 「魯迅と日本人との交流を描いた本です。」
- 白戸三平『カムイ伝』 「江戸時代の農民一揆を扱ったマンガです。」

### 先生の経歴

1960年	広島県生まれ
1978年	広島大学文学部史学科東洋史専攻
1982年	広島大学院文学研究科東洋史専攻
1990年3月	単位取得につき退学
1990年4月	広島大学文学部東洋史助手
1996年10月	総合科学部へ異動



### 取材を終えて……

取材中、こちら側の質問の答え以外にもいろんな話を聞いて頂き、一学生として楽しく、そして有意義に過ごすことが出来ました。今度は飛翔編集委員としてではなく、個人的に先生の研究室を訪れたいと思いました。また文中にあるように、先生の学生時代の思い出などが聞ける先生の講義も大変興味深いものがありました。受講してみることをお勧めします。

(取材：前田健太郎)

## 原 正幸研究室

人間文化コース 教授 (A715)



### 先生の専門は何ですか？

学部生の頃は、音楽理論を学んでいたのですが、世界というものを捉えるにあたって限界を感じ、哲学を学ぶことにしました。はじめはギリシャ哲学、特にプラトンやアリストテレスを研究していましたが、西洋の哲学では自分が生きていく上での悩み、苦しみを解決できなと感じるようになり、広島大学に来た30歳の時から、仏教をはじめとする東洋の哲学を始め、10年ほどたってこれだと確信を持つに至ったわけです。

このように、いろいろなことに興味・関心があり、一つのことにと絞って研究してきたわけではありません。「広く、浅く」やっています。

### 哲学とは何ですか？

哲学とは何か、という問いには、哲学する人の数だけ答えがあるでしょうが、私は「自分で問題をたてて問いかけていくこと」だと言えらと思います。決まった問いに対して、一つの、または何通りかの回答を出す、といった学問ではないのです。また、自分が個人としていかに生きるかはもちろん、全体がどのように生きていくに深く関わる学問だと思えます。

### 西洋の哲学と東洋の哲学との違いは？

西洋の哲学と東洋の哲学とは、根本的にちがいます。その二つの掛け橋として私は、最初に勉強した音楽を用いています。これからの時代、「どれかが正しくそれ以外は間違っている」といった考え方ではいけないと思います。違った立場の考え方を排除するのではなく、お互いに認め合って共存していく方法を模索するべきです。ただ、こういうことを口で言うのは易しいけれども、たくさんの人が実践するのはなかなか大変なことでしょうね。

### 最近の学生に対する印象は？

近年の学生は、授業中に教室から勝手に出て行ったり、携帯電話で話をしたり、床に座り込んでいたり・・・。若者が変わってきたと感じますね。

自分の思いを上手く言葉で表現できない、と悩む人もいますが、最初から上手くできなくてもいいのです。少しずついいから、問題に対する解答や、或いは見通しだけでも立てようとする、それを他人に伝えようとする姿勢が大事なのではないのでしょうか。

(取材：本田貴子)

## 竹島俊之研究室

外国語コース 教授 (A319)



### 専門を教えてください

研究内容はギリシャ語とゲルマン語を対照的に研究してるわけです。特にその構文論を対照的に研究しているのが私の研究なんです。構文論の研究では文献というのが非常に重視されるわけなんですよ。結局たくさんの文献を読みながら研究しているわけなんです。それが構文論の研究なんです。

そして私の今の研究の中心というのは専らポリュビオスという、紀元前2世紀ごろの歴史家なんです。このポリュビオスというのは、ローマが共和制時代にいかにして世界を支配するに至ったかを記述している歴史家なんです。彼の記述した『歴史』は原典では1716ページあるわけなんですけども、今はそれを翻訳しています。この『歴史』というはおもしろいんですよ。その中には有名なハンニバルとかあるいはスキピオなども出てくるし、いわゆる共和制時代の濠刺としたローマが描かれているわけなんです。それがまだ日本に全然って言うていいほど紹介されていないし、そして世界史をひもといてみると実はそこが全くの空白状態なんです。知識が全く欠けていると言ってもいいくらいなんです。それを翻訳することによって日本人に知らせようとしているのが今の私の研究の中心なんです。

研究はもうずーっと、10年ぐらい前から始めてるかな。翻訳に取りかかったのは去年の1月ごろから。文を分析して読みながら、頭の中でこう読みながら面白いなあ、面白いなあと思っていて、翻訳して出したら内容がよく解るでしょう。これはすごい内容だと夢中になりだしたんですよ。実質的にはまだ1年半だけど、でも相当進んでますよ。

### 学生に対して

私は本学でギリシャ語Ⅰ、Ⅱを教えますけど、1年生でギリシャ語文法を教えるでしょ。そして2年生になると『ヨハネ伝』読ますわけ。で私が残念に思うのは、中級として例えばドイツ語読解法基礎演習とかね、ああいったものがあるわけですけども、大学での初級外国語の面白さというのは中級に入って初めてわかってくるんですよ。初級文法を終えたら、その言語で書かれた文献がすぐ読めるところまでいってるのに誰も取らないんだなあ。それが残念ではないかな。

(取材：近澤康平)

## 中坂恵美子研究室

社会科学コース 講師 (A816)



後方が先生。

### ☆先生の専門は？

人の移動に起因する、国家の属人的管轄権の変容について調べています。ヨーロッパ統合の事例が中心ですが、最近では環境破壊による人の移動やNAFTA、WTOなど経済機構の役割についても関心を持っています。

### ☆専門を選ばれたきっかけは？

大学院に進学した当時、ヨーロッパ統合についての問題が盛り上がりつつあった時期で、「主権の壁は破られるのか？」ということに興味を持ちました。

### ☆先生のご趣味は？

夫、長女(6歳)、長男(3歳)の4人家族で、普段はもっぱら育児に追われています。最近娘と一緒にバイオリンを習い始めました。だいぶ上達して簡単な曲くらいは弾けるようになりました。良いストレス解消になっています。また、近場の温泉めぐりなども楽しんでいます。



### ☆ゼミの雰囲気は？

ひとことで言うと「和やか」。報告者中心のゼミで、ゼミ生は割とよく発言してくれます。各自の研究内容は異なりますが、かえって視野が広がったり、良い刺激になったりしているようです。

### ☆ゼミ生の研究は？

- ・ 国際法の国際犯罪
- ・ マスコミによる報道被害(人権、救済法などについて)
- ・ 女性問題(アフターマティブファッション)

### ☆先生のこれからの目標は？

今やっていることを数年のうちにまとめて博士号を取ること。

### ☆学生に一言お願いします。

広大に赴任してきて驚いたのは、学生が授業中とても静かでおとなしいこと。言えば応えてくれる能力はあるので、もっと積極的にものを言って欲しいと思います。

(取材：森岡ナナ・石田夏子)

## 早瀬光司研究室

自然環境コース 助教授 (B505)



前列中央が先生

### ♪先生の研究内容は？

モノを使い捨てではなくて、ゴミ捨て場に行かないような循環共生型社会の構築の可能性を基本的テーマとしています。循環共生型社会を構築するためには経済的側面、法的側面、社会情動的側面、技術エネルギー的側面、個人精神的側面の五つの側面に分けて考えることができます。私の研究室では、総合科学としてこれら全部について総合的に取り扱っていかうと考えています。

### ♪今の研究を始めたいきっかけは？

10年前頃までは純自然科学的な現象を扱っていましたが、地球環境問題が大きくなってきて、このままでいいのだろうかと自問自答して着手しました。また、社会と自然を結ぶ総合科学部らしい研究室にしようという思いから立ち上げました。

### ♪先生は大学時代に何を勉強していましたか？

物理化学をしていました。その中でも界面化学を専攻しており、自然界において存在する界面活性剤(フシン物質と言う)について研究していました。

### ♪総合科学部に来たいきっかけは？

広島大学総合科学部で地球化学の教官を募集していたから。

### ♪総合科学をどうお考えになりますか？

社会・文化系的な学問に理科系的な発想法、思考法、実験法、実証法を導入して、文型と理系の橋渡しをすることをやってみたい。



### ♪先生や研究室の学生は研究以外では何をなさっていますか？

以前はキャンパスに行ったり運動をやったりレクリエーションをしていたけど、今は研究が忙しくて、なかなかそんな時間がとれません。

### ♪学生に一言お願いします。

他からの情報をそのまま鵜呑みにするようなことはせず、よく考え、あらゆる事柄を通して、「自己発見」することを心掛けて欲しい。

### ♪12生に一言お願いします。

どんな講義のときでもわからないことがあれば、「まあ、いいや」では済まさないでその場で手を挙げて、聞くようにして欲しい。教官に対してどんだん注文をつけて欲しい。



(取材：山崎雄平)



## 今野 均研究室



数理情報科学コース 助教授 (C814)

### 先生の専門分野と現在の研究内容を教えてください。

数理物理学 (統計力学基礎論、場の量子論、量子群の表現論)

——可解格子模型や可積分な場の量子論の数学的構造の解明を行っています。そして、この問題について理学部の先生方と勉強会も行っています。

### 研究を行っていく上での魅力は？

1. 物理系の中に巧妙に隠されている美しい数学的構造を発見することの喜び。  
     — 推理する楽しさ + 発見する喜び + 芸術鑑賞の楽しさ
2. それを普遍化することによって一連の物理系を統一的に理解できたときの喜び。  
     — 創造の楽しさ + 前人未踏の山に登って世間を見晴らす感じ
3. 時として新しい代数系の発見や面白い物理系の発見など新しい数学概念や物理理論の創設現場に立ち会えること。

### 研究を始められたきっかけは何ですか？

大学に入る前は分子生物学をやりたいと思っていましたが、大学に入ってから分子・原子の世界を支配する量子力学というものがあることを知り、独学でどんどん勉強していったら歴史的發展と同じように場の量子論や素粒子論へ行き着きました。大学院では場の量子論や超弦理論の研究を行い、そこに現れる数学的構造の美しさにぞっこん惚れこんでしまいました。

大学時代に影響を受けた本としては、ディラック著『量子力学』(岩波書店)とハイゼンベルグ著『部分と全体』(みすず書房)を大学2年の時に読み、これによって研究者への憧れが強くなったように思います。

### 先生のご趣味は何ですか？

広く芸術鑑賞です。強いてあげればクラシック音楽、絵画、オペラ、歌舞伎などを鑑賞します。芸術作品の感動は、物理の「整った、きれいなもの」を発見した時の感動に通じるものがありますね。

### 学生の卒業研究についてどんなことを指導されてますか？

次の3コースの中から選んでもらうようにしています。

- ①代数学コース : 群・環・体の理論や代数幾何学の初歩を学ぶ。
- ②数理物理学コース : 統計力学、場の量子論、ソリトン理論などを学ぶ。
- ③Mathematica実験数学コース : 数式処理ソフトMathematicaを使って上記理論に関する問題や現象を解析・シミュレーションする研究。

### 将来の夢をお聞かせ下さい。

究極的なところで自然界を支配する法則を理解したい。

### 今の学生に対してメッセージをお願いします。

1. 多読のススメ…一般向け解説書、哲学書、小説などの読書を通じて、自分が何に興味を持って取り組めるかを見極めてほしい。
2. 自主ゼミのススメ…興味・目的を同じくする友人をつくり専門書や哲学書などを輪講しながら(あるいは時には一杯飲みながらでも)議論しあおう。
3. 独学のススメ…自分が納得いくまで取り組まなければ何事も身には付かない。とどつまるところ、学問とは独学なのである。講義はそのためのヒント程度に過ぎない。

### ～取材を終えて～

数学と物理とは実は密接な関係なのだということを、先生は取材中に何度か強調されていて、それが特に印象に残りました。私たちは普通、順番的には『数学⇒物理学』だと考えてしまいがちですが、先生は逆に「物理から新しい数学分野が生まれることだってある」「科学の歴史を通して数学と物理とは親戚関係のようなもの」だともおっしゃっていました。

(取材：園田陽平)



## 山崎昌廣研究室

生体行動科学コース 助教授 (A117)



前列一番右が先生

### # どういうことを研究してるんですか？

現在、主に取り組んでいる研究は脊髄損傷者を対象とした運動生理学的研究です。脊髄を損傷すると、下半身が麻痺したり（対麻痺）、あるいは四肢ともに麻痺してしまい（四肢麻痺）、多くの人が車椅子生活を余儀なくされます。その他、いろいろな機能が制限を受けることなのですが、これまでは運動中の呼吸循環系の調節機構に着目して研究してきました。

最近では脊髄損傷者の暑熱環境下における体温調節反応を研究しています。脊髄損傷者には主に麻痺部では汗がでないという特徴があります。頸髄を損傷して四肢麻痺になると、汗を全くかかない場合もあります。汗というのは、体温低下という大変重要な役割がありますから、暑い環境で汗が出ないと体温が上昇し続けることとなります。このような状態になったときの生体反応を脊髄損傷レベルに着目して実験を続けています。

また、脳卒中により半身麻痺となった人達を対象とした研究も始めました。これはある病院との共同研究なのですが、リハビリテーションに役立てばと考えています。

### # どうしてそういうことに興味を持ったんですか？

前任地である熊本大学時代に、福岡県飯塚市にある脊髄損傷センターの人と知り合いになり、共同研究を始めたのがそもそものきっかけです。そして、脊髄損傷者を対象として本格的に研究を始めたのは広島大学に着任してからです。身体障害者を対象とした研究はあまり行われていなかったというのも理由の一つです。

### # 昔から同じテーマですか？

脊髄損傷者を対象とした研究は十年間続けています。

### # 十年間そんなにやることがあるのかなあとありますが

身体障害者を対象とした研究はこれまであまり注目されていなかったもので、それだけやることはたくさんあります。

### # 健康系と生命系はどう違うんですか？

研究内容をみれば分かるように明らかに違います。健康系の実験系には運動生理学、運動心理学、体力医学、バイオメカニクスなどの研究分野があり、多くの先生方は人間を丸ごと扱って研究しているというのが特徴としてあげられます。

(取材：近澤庸平)

## 岡野正義・深宮齊彦・根平達夫研究室

岡野正義 物質生命科学コース教授 (C225)  
深宮齊彦 物質生命科学コース教授 (C224)  
根平達夫 物質生命科学コース助手 (C208)

生体成分化学・有機構造化学・天然物有機化学



前列左から根平先生、岡野先生、深宮先生

### 先生の専門は？

ニガキ科植物（エチオピア、中国、日本産は2種）、イチイ科植物など植物中の生物活性化合物の単離とその分子構造の決定。単離した化合物の生物活性（抗腫瘍、発ガン抑制、抗HIV、昆虫の摂食阻害など）と分子構造との相関研究。天然から得られた化合物をもとに、より強い活性物質を目指した誘導体合成の研究を行っています。また天然の不斉分子の絶対構造決定法の研究を行っています。

### これからどんなことを研究したいと思いますか？

自然界には物質が関与した様々な生命現象があります。広い意味で、天然に存在する物質の機能を研究していきたいと思います。それが人間に有用であり、環境と調和する物質の発見と利用に繋がれば、と願っています。

### 学生への一言

総合科学部には一学部の中に様々な分野の先生がおられます。この学部で学生諸君の闊達な気質を生かして、多くの先生から積極的に学び、将来に役立つ複数の基礎的知識の“引き出し”を持ってほしいと思います。

### 先生が今の専門に進んだきっかけは何ですか？

教養の時読んだ有機化学の本が面白かったので。

### 先生のオフィスアワー

いつでもどうぞ遠慮なくノックしてのぞいてみて下さい。

### 先生の著書

- ◇ Studies in natural products chemistry Vol.7. (共著)
- ◇ 現代の物質観 (共著)
- ◇ 新しい有機化学 (共著)
- ◇ 天然物化学への招待 (共著)

\* 深宮先生にお話をお伺いしました。

(取材：岡田聖香)